



柳田文庫  
 文庫11  
 A1638  
 2

48-8753





三考天射録 卷之五

第二十四

由井の書合別山の形書之事と名ひて推自の  
 別格ふ号合と云付く是は亦と神歌三々云く後  
 と血利神文と云く一連の事と林云々なり  
 一 大なる事と云く是は亦と人小愛と云く一書との形録も亦















千石の道理に... 家居紐... 儉約... 其夕の會事... 山利子と吟味... 事

儉約... 毎小費... 各番... 借... 宝海... 又武...

又武... 用... 見... 花... の好...

一 猿... 作... 什... 半... 是...















其具の類三ホのめよ小注略の撰極を明りて用事  
と云之常とらふ位のの事なればいかに計り  
なすともふ知しる事皆死法と成り用之るは  
これよりいかにめよとてかゝ款の條を略して用之る  
事法を簡くせしむるは法を簡くせしむる事  
其抄け理をも通けお種々の事をして古述位の詞  
成方々志のやうなるも子孫後述位をいして写本  
け事と稱して田に名を合ふ妙句をいして心  
及の軍の事なるといふと引用して然とて古述  
位後述のやうなるも思ふべき事なるといふ  
事なきこと右小載の條の事なるといふこと  
世の士大夫の志願をいして少くも利欲の事  
のいふをいして高人の志願をいして故にけの  
事なきこと写本の位に写し置きの後述位  
も述位の事なるといふ

第二十五

けれ在稿の條を撰極の門中りて述之る事  
一今も八百余人の事なるといふ事なるといふ  
信し難き事なるといふ事なるといふ事なるといふ  
事なるといふ事なるといふ事なるといふ事











































若佛と稱して是より大守を尊と撰る合什也  
定くは云はる所なりや 未だ其の詳は  
我の能くしるべき事なきに在り 能くは  
しるべき事なきに在り 能くは  
切く其の其の事なきに在り 能くは  
飛鳥の事なきに在り 能くは  
の物なきに在り 能くは  
亦も揚天の事なきに在り 能くは  
も静かき大守の事なきに在り 能くは  
乙名人たるは物なきに在り 能くは

佛の同運の甲斐なきに在り 能くは  
平之と戸田流の事なきに在り 能くは  
自ら其の人の事なきに在り 能くは  
むすむは是れ其の事なきに在り 能くは  
如くは一牛の事なきに在り 能くは  
叔父の事なきに在り 能くは  
迷恨なきに在り 能くは  
法人の事なきに在り 能くは  
其の事なきに在り 能くは  
此の事なきに在り 能くは































忠臣伝伊豆守の由目録に伊豆守の事ありて是の事か  
形とてまわく忠臣の事とて一々伊豆守ありて  
大守の心申すこと極心ありて屋敷ありて入封は極心  
天神の由極心ありて忠臣の事とて忠臣の事とて  
ありて伊豆守の由目録とて忠臣の事とてありて  
吾の所くは忠臣の事とて忠臣の事とてありて  
伊豆守の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
伊豆守の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて

之用 亦 忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて

其後田代、畢村伊豆守ありて忠臣の事とてありて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて

第二十七

其の年八月十五日仙臺陸奥守忠宗は忠臣の  
府ありて伊豆守ありて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて  
ありて忠臣の事とて忠臣の事とてありて忠臣の事とて



























付定てくけりて依原十津海を為らたしつゝぬ山岳  
右門下知被下十又極井二方より同者三津海もくも  
沙衣上種まの依原くくく通く時々又伊東田友が軍  
家の依原くく通出下一進めく者たつては依原之島  
全右指下門と拉軍のたつて紙筒打たの旗  
袍三百挺と用ゑくく中逢ふ侍くく打ちくく扱又  
伊東田友九橋友の軍勢つてお打成日光く山と猪心丸  
先軍くくくくくくく中陣さより流しなす大谷川  
のわたりとせきくくく伊と梓石侍幸町と平二田の海  
とぬくくくく海味子の其間くくく山傳くくく山堂  
日光く山と根城くくく天下学校の印とくく人車並  
あり又道中の多を順れ山依原の者も亦山岳の  
おまふくくく福天八の念意くくく百里のくくく時  
初くく十各く右勅少傷くく名をく天のくくやん事  
出くありたくくく承知被下くくくくくく死に  
くくく南三院ひくく子天下とくくくくくくくくく  
海軍ありおぬ海くくく人くくく海に毎 依又くくく日  
其間四年四月廿六日系於のたつて後平たつて徳谷  
くくく系大坂のたつて吉田金井二組八人くく系大坂の  
くくくくく、今二年ありありかあ然然くくく系くく







































り吉田金井密に是と推せん一其の中身一

何れも推せん 是より加藤徳谷の方へ送るべし

其人居りし書一公卿の後一門者と記んとす

念此の池を發して別とすりまより公卿と大塚

依えの便くもと本と系統と記きりし一其仲の金合箱

この浮世味も自らと信一り仲少き人下りし

情の社昔太周秀吉名の由原居成りし一其仲の生原

花の形新波は月もと情り一系成りし一や御中兼

好の室のし一花や成りし一其仲のし一一人居りし

原とあり一其仲のし一花の及又情の及あり

是一昔の形もあり一其仲の太周の清に詳せり

はれと云ふと情のし一其仲の身かたの波皮の事一夢の事

新あり推しし一其仲の事一其仲の事一其仲の事

南の一睡の及も一其仲の事一其仲の事一其仲の事

の浮世あり一其仲の事一其仲の事一其仲の事

一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

去りし一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

名も一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

らりし一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

名も一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

らりし一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

名も一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

らりし一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事

名も一其仲の事一其仲の事一其仲の事一其仲の事



後、小島先刻より、是より先の、  
りた、  
叶、  
は、  
と、  
三、  
若、  
徳、  
と、  
ふ、  
一、  
め、  
と、  
純、  
極、  
と、  
何、

皆、











破くきこ又味方の妻の子は能きまると誠々谷糖酒  
を不引越さしきりの肝要と又は洗村もたすつと死布  
を之兵指の長山廿四日より山毎を以て府伴して直  
とPも一とあるもの百人を引率して廿四日海府  
あまは下あまをさるる橋は果園は路を自記りの如く備  
おんまをまへて中籠ひよるる人々のつせを終る十  
年之終を未代止とすす岩船借り西の丸  
務の依りし對のるを全改の先におも共を人事進  
あまると徳人命あり黒白二定の年と清城のるる向  
かり天指をさるたりと山幸の枝を切て

一車始ありと各勇の候ひ各々宿所つゆりり板  
中井丸橋の事跡廿六日と定め酒果つてかめ酒  
はしてはけぬきと早お希とるる高た橋を考とるる廿  
一日あまの山幸海府にあまの橋よりあまの廿日の夜六日  
戸の岩ありぬるるは果園丸橋自板化をぬらふ事  
山幸うさ夫の真下に北集り山幸うさ高小琴を弾きさ  
是の橋中  
にまたり各樂の意をさるる栗城樂の如くを奏し酒  
をあまの役をぬらふ樂をさるるはけは山幸丸橋の向  
Pにさるる歌あまの山幸の如くはさるる長さるる  
於度二男ありと君又の儀を精々人事旦夕あり



必其... 天... 運... 仕... 山... 乃... 幸... 右... 左... 回... 且... 一... 不... 是... 神... 乃... 門... 秋... 廊...

回... 且... 一... 不... 是... 神... 乃... 門... 秋... 廊... 廊善







































法大の字ありおるは清原門の住りて織原國之國  
於七十余石石部尾中於光長郷同市段の石部織  
お家の山家督の織原福井の石部二十石石部織  
少於光通の石部織の織原家の石部織の石部織  
於十八石石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
車の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
浦島織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
相多山石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
大小石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
お家の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
太鼓九曜の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
能の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
大石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
二の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
能の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
酒井宮内石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織  
石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織の石部織







































